

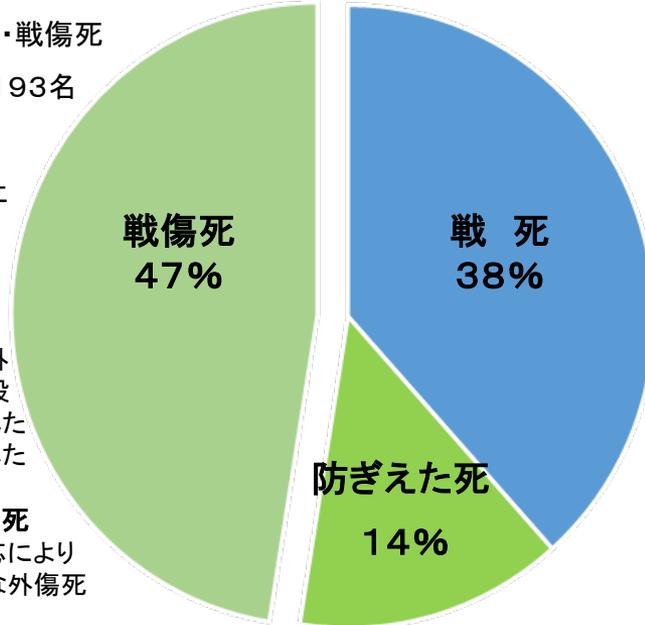
戦死・戦傷死の減少と防ぎえた戦死原因の変化

ベトナム戦争 1955年11月 - 1975年4月30日

戦死・戦傷死

58,193名

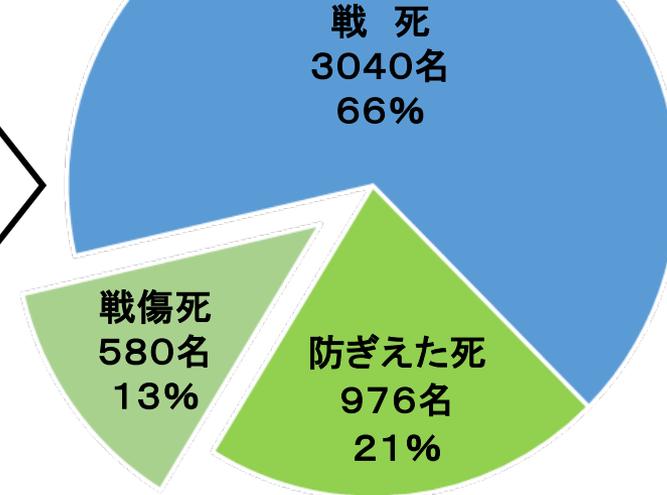
戦死
戦傷により治療施設に收容される前に死亡したもの
戦傷死
作戦地域外の治療施設に收容された後に死亡したもの
防ぎえた死
適切な対応により回避可能な外傷死



対テロ戦争 War on Terror 2001年～2011年

戦死・戦傷死

4,596名



「防ぎえた死」は「戦死」の一部である。

「戦傷死」は治療施設に收容後、手を尽くしたものの死亡したものであるから、防ぎえた死に含まれない。

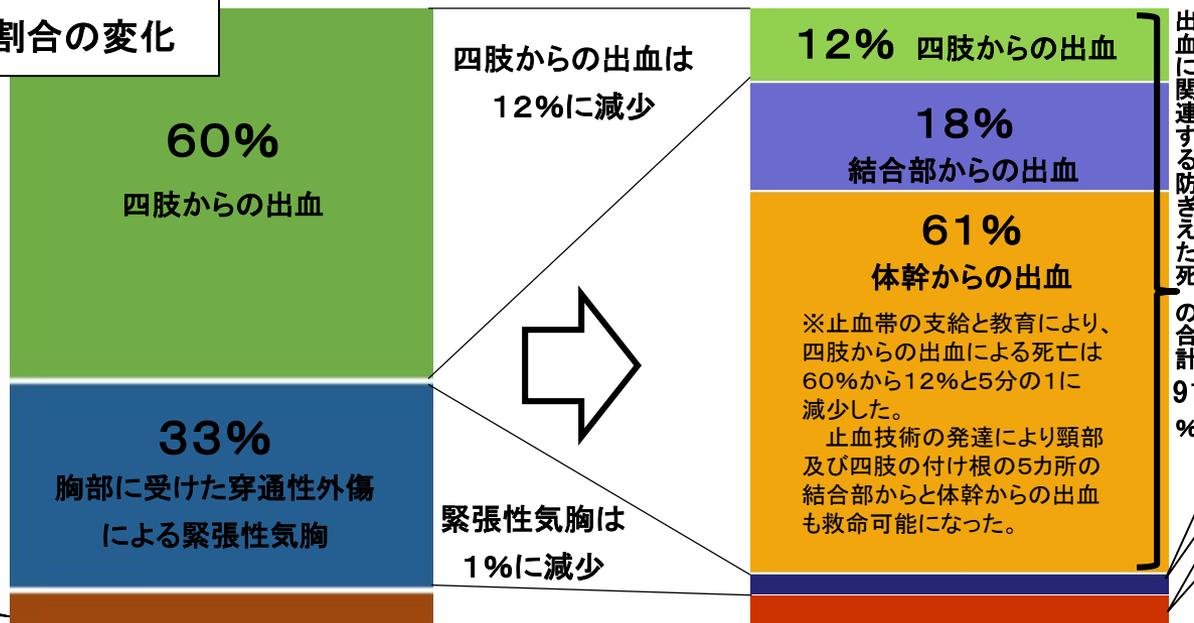
第一線における救命のための教育、資材の充実により、防ぎえた死の割合が14%から21%と1.5倍に増加している。

治療・後送のシステムが進歩したため、戦傷死は47%から13%と3分の1以下に減少した。

救命率の上昇に伴い、相対的に戦死の割合が増加している。

緊張性気胸による死亡率が33%から1%へと著しく低下しているのはショックの判定とBURP法教育の徹底による。

防ぎえた死の割合の変化



四肢からの出血は
12%に減少

緊張性気胸は
1%に減少

12% 四肢からの出血

18%
結合部からの出血

61%
体幹からの出血

※止血帯の支給と教育により、四肢からの出血による死亡は60%から12%と5分の1に減少した。

止血技術の発達により頸部及び四肢の付け根の5カ所の結合部からと体幹からの出血も救命可能になった。

出血に関連する防ぎえた死の合計 91%

7%
気道の損傷
または閉塞

33%
胸部に受けた穿通性外傷
による緊張性気胸

1%
胸部に受けた穿通性外傷
による緊張性気胸

8%
気道の損傷または閉塞

制作: 照井資規 2018
無断転載を禁じる

出典: Tactical Combat Casualty Care GUIDEBOOK
Howard R Champion, et al. A Profile of Combat injury.
J Trauma, 2003;54:S13-19を一部改変
Brian J Eastruge, Mabry RL, Seguin P, et al.:
Death on the battlefield(2001-2011)
Implication for the future of combat casualty care.
J Trauma Acute Care Surg 73(6 Suppl 5)
: S431-S437, 2012を一部改変